

要 旨

本稿は、核融合アーカイブ室が所蔵する核融合関係資料の概要と資料情報の公開について、アーカイブズ資料管理論の観点から述べるものである。

核融合アーカイブ室は、大学共同利用機関法人・自然科学研究機構・核融合科学研究所に2005年に設置されたアーカイブズである。日本の核融合研究や組織の歴史に関する資料を収集・調査・整理・保存し、全ての利用者に適切に公開することにより、核融合研究に対する歴史的評価と社会に対する説明責任を果たすことを目的としている。

資料群の中心は、国内外の核融合研究に係わる研究者個人からの寄贈資料、あるいは前身機関の一つである名古屋大学プラズマ研究所や核融合科学研究所、その他、関連機関からの提供資料である。現在、約25,500点（未整理資料除く）を所蔵している。利用は研究者や職員中心であるが、室の存在を知ることが一部の者に限られる。一因として情報提供の不足、室で所蔵する資料群の概要が示されていないことなどが挙げられる。

本稿では、同室が所蔵する資料群を調査し、概要を明らかにするとともに、同室所蔵資料の意義について、核融合研究やその他の研究への提供の可能性という点から論じ、今後、資料情報を提供するにあたり、アーカイブズとして整えるべき要件について考察する。

第1章では、核融合研究の歴史の概略と核融合科学研究所設立、および核融合アーカイブ室設置について経緯を説明する。第2章では、核融合研究の歴史に係わる資料収集・調査・整理について、同室設置前と設置後の状況について述べる。第3章では、同室所蔵資料群の概要を調査し、代表例として前組織（名古屋大学プラズマ研究所時代）から受け継いだ資料についての概要を述べる。第4章では、調査結果の分析を行い、同室所蔵資料の意義を論ずるとともに、今後の利活用を視野に、資料の特性から関係機関連携の必要性和課題について述べる。

第5章では、資料情報の公開の現状と、資料情報の提供にあたりアーカイブズとして整備すべき要件について、資料に関する情報の可視化という観点から考察する。ISAD (G) で示されているマルチレベル記述の原則をもとに、調査を行った代表的な資料群について階層構造を構築し、データベース上での表示の仕方について試案を示す。国際標準に従い、所蔵資料の概要がわかるよう整備し、資料情報の公開を進めることで、「核融合研究の歴史に関わる資料を広く収集・保存し、核融合研究の歴史評価と社会に対する説明責任を果たすことをめざす」とする同室の目的が明確になると共に、関係機関との今後の連携および資料の利活用に繋がると考える。

最後に今後の課題と研究機関に所属するアーキビストの果たす役割について述べる。